

ワークショップ『中間とまとめ』に向け議論を進めています！

● 今年度のワークショップがいよいよ大詰め

「(仮称)鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ」は、昨年11月20日(日)に第4回、12月11日(日)に第5回、年が明けた1月14日(土)に第6回が開催されました。今年度の開催は5回を目途としていましたが、参加者から“もう少し議論の時間がほしい”といった意見が多く出されたことから、予備日としていた1月14日(土)に第6回を開催し、さらに3月17日(土)に第7回を開催することになりました。

現在、ワークショップ事務局では、参加者からの意見を整理し、今後に向けた『中間とりまとめ』の編集作業を進めています。



第4回ワークショップの会場

● ワークショップでのこれまでの議論について

鎌倉は、首都圏有数の観光地であることは言うまでもありません。一方で、鎌倉の海岸で漁業が営まれていることは、これまで広く知られることがありませんでした。

そんな中で、今回のワークショップでは、初めて市民と漁業者が直接、意見を交わすなど、これまでにない対話の場が形成され、産業振興における水産業の重要性や景観や市民生活への影響など、多くの話題で相互理解が進みました。

今回は、これまでのワークショップで出された主な意見をいくつかのキーワードに分類・列挙して、市民の皆さんにご紹介します。

【水産業振興の検討】

『水産業は今後の鎌倉市の産業振興や観光を考える上で重要な要素』であり、行政や鎌倉漁協は、漁港問題を論ずるより前に『水産業について将来的なビジョンを明確に示し、その上で漁港施設のインフラ整備として必要なものについて、検討を行うことが説得力のある方法ではないか』といった意見が出されました。

【地産地消】

地産地消は、最近「地産地商」と表記するような例も見られ、地産地消が地元商業の発展へも寄与するようなソフト対策も重要だ、という意見が出されました。

- ◆ 漁業者が一か所に集まれば、消費者も魚を購入しやすくなる。
- ◆ 直営レストランなども検討すべきではないか。
- ◆ 漁協直販など地産地消の促進が地元商業(魚屋)を圧迫するのではないか。
- ◆ 水産業振興、地産地商の起点として発展・活性化を目指すべきである。

一方で、『漁港建設と地産地消は繋がるのか』『そもそも地産地消の促進が必要か』といった漁港建設と地産地消は別な議論とするような意見もありました。

【就労環境の改善】

漁業就労環境や水産業の方向性について、漁業者、漁業関係者以外の双方から様々な意見が出されました。

(漁業者からの意見)

- ◆ 砂浜からの出漁、水揚げ、出荷は、漁港利用に比べ過労働を強いられている。
- ◆ 獲る魚によって漁具が異なり、多くの資材とその保管場所が必要である。
- ◆ 周辺の港は既にいっぱい、鎌倉の漁業者が入り込む余地がほとんどない。
- ◆ 台風などの時化で船を避難させる場所がない。一番に安全を確保したい。

(漁業関係者以外からの意見)

- ◆ 漁協・漁場・漁港の統廃合を進めて、他漁港やマリーナなどの既存施設の有効活用を模索すべきである。
- ◆ 「漁港建設」の検討には時間がかかることから、台風などによる被害が起きないように、現状の就労環境の改善について検討すべきである。

参加者からは就労環境改善の必要性については理解するものの『漁業者支援のみが漁港建設の理由では、市民の理解が得られない』とし、『広く市民へ効果が還元される方策と、かつ漁業者の就労環境も改善される方策について十分な検討を行うべきである』という意見が出されました。



成果発表（第5回ワークショップ）

【環境への影響】

自然環境や生活環境への影響を懸念する意見が多く出されました。

(自然環境)

- ◆ 埋立ては環境の悪化に繋がるのでやめてほしい。
- ◆ 環境の悪化は、鎌倉の魅力の低下に繋がる。
- ◆ 漁港建設による環境変化で、新たに海岸侵食対策等が必要にならないか心配である。
- ◆ 鎌倉海岸に漁業があることで海の環境を維持できている一面（海守）もある。
- ◆ 海の環境が大きく変わるようなことがあれば、一番困るのは漁業者である。
- ◆ 環境アセスメントを納得する評価項目で実施してほしい。
- ◆ 漁業者による日常の漁業活動を通じた実践的なアセスメントも必要ではないか。

(生活環境・眺望)

- ◆ 浜小屋や周辺の景観が雑然としているので、何とかしてもらいたい。
- ◆ 漁港建設地周辺では眺望への影響が生じる。特に第3次鎌倉漁港対策協議会(漁対協)答申の候補地では、坂ノ下の住宅地などで眺望への影響がある。
- ◆ 眺望への影響があるから造らない方が良く、ということにはならない。
- ◆ 港のある風景は悪いものではない。鎌倉らしいセンスある港にすれば良い。

【海岸・海域利用】

海岸・海域の利用に関しては、次のような意見が出されました。

- ◆ 現状でも坂ノ下付近の砂浜は減少している。
- ◆ 砂浜が減少すれば、海水浴場が開設できない状況にもなりかねない。
- ◆ 毎年、砂を入れるが、時化で沖へ流出してしまう。その繰り返しを止められないか。
- ◆ 坂ノ下の海はマリンスポーツに最適なので保全してほしい。
- ◆ 漁業者がマリンスポーツを受け入れているのは鎌倉の良い特徴である。

【漁港施設の検討】

具体的な漁港施設に関しては、堀込式による漁港建設の再検証、腰越漁港・小坪漁港・逗子マリーナへの活動拠点移行及び一時避難の検討、和賀江嶋の史跡的復興及び漁業利用の検討や、漁港建設以外の漁業支援策・選択肢の検討など、活発な意見が出されました。

【費用対効果分析の実施】

費用対効果分析の時期は基本計画策定時に行うとのことであるが、先に実施すべきではないか、という意見が出されました。

- ◆ 費用対効果が定まらない事業を進めるのは反対である。
- ◆ B（Benefit 便益）の項目は範囲を市民が提案できるようにしたい。
- ◆ 漁対協で、ある程度の事業内容が定まったのであれば、試算できるはずである。



意見交換（第6回ワークショップ）

【「中間とりまとめ」とワークショップの継続】

第6回ワークショップでは、「中間とりまとめ（素案）」についての議論が行われ、『単に意見の羅列ではなく、何らかのメッセージを書き残すべきである』との意見が出されました。

また、議論は未だ十分ではなく、鎌倉地域の漁業を取り巻く様々な観点から議論を続けるべきで、今後もワークショップを継続することが求められました。

次回の第7回ワークショップでは、この「中間とりまとめ」を最終的に確認するとともに、「24年度以降のワークショップをどのように進めていくか」をテーマに議論を行う予定です。

● ワークショップの開催概要

開催日及び参加者数

回数	開催日	公募市民	関係団体	合計	傍聴者
第4回	11月20日（日）	12名	11名	23名	29名
第5回	12月11日（日）	13名	10名	23名	21名
第6回	1月14日（土）	13名	10名	23名	16名

グループワークの検討テーマ

回数	検討テーマ
第4回	漁港建設の必要性、デメリット、市民への利益還元について
第5回	中間とりまとめに向けた個別課題に対する意見の整理
第6回	「中間とりまとめ（素案）」の内容について

ファシリテータ：齋藤潮氏（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

開催時間：全て 10：00～12：00

開催場所：鎌倉市役所 811 会議室

鎌倉市のホームページに『（仮称）鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ』を開設しています。ワークショップ配付資料や会議録などがご覧頂けます。

ホーム>産業・まちづくり>水産業>（仮称）鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ

アドレス：<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/sangyou/workshop/kamakurawk.html>

◆◇◆◇◆鎌倉の海、漁業、レジャー◆◇◆◇◆

鎌倉の海は、ワカメ養殖の最盛期です。

冬の冷たい空気が海岸を覆うようになるこの季節、鎌倉の海では、ワカメ養殖の最盛期を迎えます。

鎌倉の海は、神奈川県内屈指のワカメ養殖が行われています。ワカメの養殖は、由比ヶ浜の沖合数百メートルまでの海に浮かべた筏（いかだ）で、11月中旬から翌年の3月まで行われます。

筏は、太いロープ（写真上）で造られていて、大きな浮子（うき）を付けて海上に浮かべ、錨（アンカー）で動かないようにします。筏の太いロープからは、海中に細いロープが沢山下がっています。このロープには、ワカメの種・若芽（写真中）が付けられていて、これが鎌倉の豊かな冬の海で美味しく育ちます。

ワカメの種付け（写真下）は、晩秋のまだ早朝の寒いうちから始めるので、手袋をしていても手がかじかむほど冷たくなります。それでも、穏やかな晴れた朝の海はとても気持ちが良いものです。この頃、朝の散歩で作業風景を見たことのある方もいるのではないのでしょうか。

鎌倉の海で2か月半ほど成長したワカメは2月初旬から3月終わり頃まで漁師の手で刈り取られ、浜で釜茹でされてから、天日干しや塩漬けにされて市内の各所で販売されます。毎年、この“鎌倉ワカメ”を心待ちにしているファンも多いそうです。



♠ ♠ ♠ 編集後記 ♠ ♠ ♠

昨年の第4回、第5回ワークショップ及び1月14日開催の第6回ワークショップでは、各回ともに長時間にわたるグループワークを実施し、参加者は共に各々の立場から意見を述べ、お互いの意見を尊重し合いながら一歩先の議論までなされたように思います。

また、漁業と地域との関係の在り方についても話題として挙げられており、長期的な視点で鎌倉市の将来について話し合いが行われたようにも感じられました。しかしながら、グループの中には十分に自分の意見を述べられずにいた方も見受けられたので、次回のワークショップでは参加者全員が充実した時間を過ごせるよう研究室一同、精一杯努めていきたいと思っております。

今後とも宜しくお願いいたします。

東京工業大学大学院 齋藤潮研究室所属 ワークショップ参加学生一同

発行者／事務局：鎌倉市市民経済部産業振興課

TEL：0467-23-3000（内線2481） FAX：0467-23-7505

市HP：<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/>

編集：（財）漁港漁場漁村技術研究所